



野木町長
真瀬宏子

野木町の良さ発見、発信の年

新年あけましておめでとうございます。今年も新しい年の第一歩がはじまりました。皆様にとりましてより素晴らしい年となります。まずように心よりお祈り申し上げます。

さて、本年は「小さくてもキラリと光る野木町」が、さらにキラキラ輝くように、皆様とともに町の良いところをよく見出し、共通理解できるように努力してまいりたいと思います。そのような意味では、誰もが自分たちが住んでいるこの町の良さを発見し、宣伝していけるような企画をもつと立てていきたいと思っています。

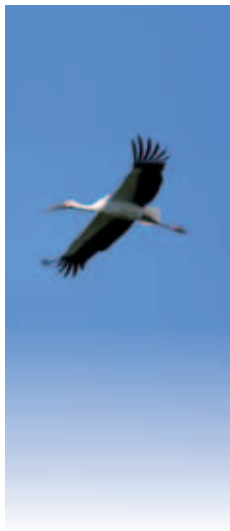
まず具体的に野木町の良いところをいくつか挙げてみましょう。第一に、農村部と駅周辺の住宅街がバランスよくコンパクトにまとまっていることで、全町的な行事や町民との協働事業がやりやすく、町民パワーが大きく拡大して町の活性化の源と

ごあいさつ

謹んで新年のごあいさつを申し上げます

なっていることです。さらに元気の源として、二つの工業団地には、優良な企業が多くつもあつて町の基盤づくりに寄与してくださっており、さらに現在拡大計画が確実に実現に向かっていることです。平地で災害の少ない町ということが、住民の安全安心、企業の誘致にも繋がっています。また東京まで通勤圏という便利な町でありながら、自然が豊かに残っていて安らげる町でもあります。平地林には野兎、水辺には蜚常緑高木にはフクロウ、オオタカさえもいる野木町は、多様な生物が息する渡良瀬遊水地に飛来したコウノトリとともに今年も大きく飛躍したいと思っています。

私は昨年レンガ窯つながりドイツを訪ねたのですが、その折、空想上だったコウノトリの巣がレンガ窯の煙突のてっぺんにあつたのを見てびっくりしました。わが町のレンガ窯でもそんなことが実現できればいいですね。夢は楽しく描いてみるものだと思います。



また「子育てしやすい町」についてはだいぶ定着してきましたが、より高く目標を掲げ、教育も含めてこの町で子育てができる喜びがみんな味わえるようにしたいと思います。

ドイツのペーテルという地域では、約4割の方が障がい者もしくは弱い立場の高齢者や病気の方々であるにもかかわらず、少しでも自立し、支えあつて暮らしている姿を目の当たりにして、私たちの体の中には、限りなく可能性に満ちた伸びる力と才能があると確信してきました。特に芸術作品には深い共感と感動を味わつてまいりました。それはお互いに信頼しあい、支えあい、自立しあつて静かな安定した関係が、見事に成り立っているからできることだと思えました。この野木町にも少しでもその精神が導入できればと思います。いつかはその夢も実現する時が来るかもしれません。やさしさと安らぎに満ちた明るい野木町に向かっているのですから。

もっともつと良いところがたくさんある野木町です。なによりも花とレンガのまちとしてレンガ窯周辺の整備を進め、人を呼び込む工夫を重ねていきます。今年も皆様のお幸せをお祈り申し上げます。



渡良瀬遊水地で新年を想う

2017年の元旦は渡良瀬遊水地で迎えるように思っている。

かつて、遠くの友人が来ると、必ず渡良瀬遊水地に案内した。(当時、野木町煉瓦窯は未整備だった。) 私にとっても遊水地はふるさと野木町の自慢の場所だった。関東平野のご真ん中に、広大な原野があることに誰もが驚いた。

渡良瀬遊水地は2012年にラムサール条約登録湿地になった。乾燥化が進んでいたが、生物多様性を育む湿地として認知されると、湿地再生の取り組みも進み多くの人たちが訪れるようになった。しかし、その成り立ちを考えると様々な思いが脳裏を駆け巡る。

6年前の福島第一原発の事故以来、日本でもダークツーリズムが提唱され、広まってきている。ダークツーリズムとは「人類



野木町議会議長
館野孝良

2017年(平成29年) 新年の

の悲しみと対峙する旅」と簡約されるが、過去に人間が起した負の歴史現場を尋ねて、将来の人間の生き方を考える旅のことである。ヨーロッパではアウシュビッツの強制収容所やチェルノブイリの原発事故跡地が、ダークツーリズムの対象として有名である。日本では広島島の原爆ドームや沖縄の戦跡を訪れる旅が代表的である。3年前から町内の中学生が8月6日の平和の式典に参加するようになった。これがまさにダークツーリズムである。彼らの感想文を読むと、原爆を通して戦争や平和への認識がより深くなったことが良くわかる。しかし、現実には核兵器も戦争もなくなっていない。

野木町に隣接する渡良瀬遊水地もダークツーリズムの対象として最適なところである。明治時代、殖産興業のもと足尾銅山の採掘と精錬が盛んになったが、その結果として煙害と鉛毒により渡良瀬川の流域は大きな被害を受けた。明治政府は足尾銅山から流れ出た鉛毒を沈殿させるため、谷中村を廃村にして遊水地にする計画を立てた。渡良瀬川は鉛毒事件や谷中村廃村など、数多くの惨劇の舞台になった。これらの住民運動の先頭に立ったのが田中正造である。日本最初の公害闘争は鎮圧され、谷中村は消滅し、鉛毒事件を隠蔽し首都圏を水害から守るための遊水地となった。

しかし、100年の歳月がその遊水地を自然豊かな湿地に変えた。多くの野鳥が飛来し、希少な植物も再生復活している。移住させられた住民は辛酸をなめさせられたが、谷中村を復活させようとする者はいな

い。結果として関東平野の中央部に、広大で自然豊かな湿地が残されることになった。田中正造が現在の渡良瀬遊水地を見たら何と思うのであろうか。その過去を振り返ると、歴史の奥深さを感じずにはいられない。渡良瀬遊水地は、ダークツーリズムの精神が生かされた世界に誇れる場所となった。遊水地は野木町の宝である。国の歴史を、町の成り立ちを、自分を振り返りたいときは遊水地へ出かけてみようではないか。

